

疑似点震源モデルによる2003年5月26日宮城県沖スラブ内地震の強震動シミュレーション

A pseudo point-source model for off Miyagi intraslab earthquake on May 26, 2003

若井 淳^{1*}; 長坂 陽介¹; 野津 厚¹

WAKAI, Atsushi^{1*}; NAGASAKA, Yosuke¹; NOZU, Atsushi¹

¹ 港湾空港技術研究所

¹Port and Airport Research Institute

最近の研究で、既往の特性化震源モデルをさらに単純化した疑似点震源モデルが提案され、2011年東北地方太平洋沖地震への適用性が確認されている。単純化の要点は、強震動の生成に関わる各々のサブイベントに対し、その内部におけるすべりの時空間分布を詳細にはモデル化せず、各々のサブイベントが生成する震源スペクトルのみをモデル化するという点である。今後、疑似点震源モデルの活用を目指す場合、他の代表的な地震への適用性を検証することは重要である。本検討では、2003年5月26日に発生した宮城県沖のスラブ内地震を例に、疑似点震源モデルの適用性を検討した。その結果、波形およびフーリエスペクトルともに特性化震源モデルと同等の再現性を有することを確認した。

キーワード: 疑似点震源モデル, スラブ内地震, 強震動, 2003年宮城県沖地震

Keywords: pseudo point-source model, intraslab earthquake, strong ground motion, the 2003 off Miyagi earthquake